

# 被覆肥料のプラスチック被膜殻の流出防止対策を！

- 被覆肥料は、追肥の省力化や施肥量の削減につながる肥料です。
- その一方で、表面をプラスチックでコーティングしているため、肥料成分が溶け出した後の被膜殻が水面に浮かんで、ほ場から河川を通じて海洋へ流出し、海洋汚染の要因となることが指摘されています。



水面上に浮かぶプラスチック被膜殻

被膜殻の流出の9割は代かき時期に起きています。  
流出防止と代替技術の2つのパターンで対策を！

## その1:流出防止



↑ 浅水代かき: 代かきは浅水で行い、その後は自然落水を！



↑ レベラーでほ場を均平化しておくとし水代かきがしやすくなります



↑ 浮かび上がったプラスチック被膜殻を網などですくい取り ※

※ 補集した被膜殻は、廃プラとして市町村、又はJAのルールに従って適切に処理をお願いします。



落水口にネットを張って被膜殻を捕集



このようなネットの張り方もあります

## その2:代替技術

### ① プラスチックを使用しない緩効性肥料への切替

・流し込み液肥 ・硫黄コート肥料 ・ウレアホルム肥料 など



流し込み液肥



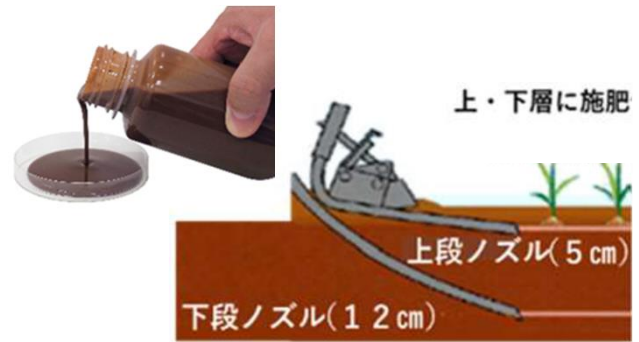
ウレアホルム肥料

### ② 省力的な施肥体系への切替

・ドローンによる局所施肥 ・ペースト2段施肥 など



ドローンによる施肥



ペースト2段施肥

## プラスチック被膜殻のほ場外への流出防止、被覆肥料の代替技術の検証を支援しています

事業名	採択要件	補助率	予算年度	対象となる機械等
グリーンな栽培体系への転換サポート事業	環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を新たに取り入れた栽培体系を検証すること等	1/2以内、定額	R5補正、R6	自動アシスト田植機 レーザーレベラー ドローン ペースト2段施肥対応田植機等

お問い合わせ先

農林水産省中国四国農政局生産部生産技術環境課  
TEL : 086-230-4249



↑中国四国農政局のHPもご覧ください



# 海洋汚染防止に向けてプラスチック被覆肥料の代替技術等を支援します！



みどりの食料システム戦略緊急対策交付金・みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

## 1. プラスチック被覆肥料とは

- 作物の生育に応じて肥料成分が溶け出すことから、春に投入することで、夏場の追肥を省力化できる肥料です。
- また、肥料の投入量も減り、地下水への流出などが抑えられ、環境への負荷も低減できる肥料です。



## 2. プラスチック被膜殻の流出について

- 被膜殻は、水田などの**ほ場から水路や河川を通じて海洋へ流出し、海洋汚染の要因**となることが指摘されています。
- そのため、プラスチック被覆肥料を使用した場合は**被膜殻がほ場から流出しないよう**気をつける必要があります。

## 3. プラスチック被覆肥料の代替技術等の例

### ○代替技術

#### ①プラスチックを使用しない緩効性肥料への切替

- ・硝化抑制剤入り流し込み液肥
- ・硫黄コート
- ・ウレアホルム など

#### ②省力的な施肥体系への切替

- ・ドローンによる局所施肥
- ・ペースト2段施肥技術 など



▲ドローンによる局所施肥



▲硝化抑制剤入り流し込み液肥

### ○流出防止対策

- ・浅水代かき
- ・自然落水
- ・排水口におけるネットの設置 など



▲浅水代かき

## 4. 具体的な支援内容

### (1) 支援対象

協議会、都道府県、市町村、農業協同組合

\* 農業者に加えて、都道府県（普及組織）又は農業協同組合（営農指導事業担当）が事業に参加すること（都道府県（普及組織）が事業に参加しない場合は助言を受けること）

### (2) 支援の内容

「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する技術」を取り入れた「グリーンな栽培体系」への転換を推進するため、産地に適した技術を検証し、定着を図る取組として下記の取組を支援

ア グリーンな栽培体系の検討（必須）（交付率：定額、上限額：300万円※1）

※1 複数の環境負荷低減（例：化学肥料の使用量低減＋水田からのメタンの排出削減）に取り組む場合は360万円

① 検討会の開催 ② グリーンな栽培体系の検証 ③ グリーンな栽培マニュアル・産地戦略の策定 ④ 情報発信

イ グリーンな栽培体系への転換に向けたスマート農業機械等の導入（選択）（交付率：1/2以内）

ウ 消費者理解の醸成（選択）（交付率：定額、上限額：30万円※2）

※2 ただし、アとの合計額は300万円又は360万円まで

### (3) 交付対象経費

(2) に必要な検証ほ場・機械の借上経費、資材購入費、データ分析の委託費、検討会開催費 等

### (4) 配分時のポイントの考え方

取組内容や産地戦略の目標に合わせてポイント（最大28pt）がつけられ上位者より配分

以下は、水稻でプラスチック被覆肥料対策の取組を行う場合のイメージ

#### 環境負荷低減の取組（上限15pt）※3

取組内容に応じて最大15pt

例1：プラスチック被覆肥料を硝化抑制剤入り流し込み液肥に代替することで13pt

例2：被膜殻の流出防止技術として、代かき後の水管理を強制落水ではなく、自然落水で行うことで11pt

他の環境にやさしい栽培技術と併せた取組で2pt

例：化学農薬の使用回数の低減



▲硝化抑制剤入り流し込み液肥



#### 省力化に資する技術（上限9pt）※3

省力化度合いに応じて最大9pt

例：リモコン式草刈り機により、畦畔の草刈り作業にかかる時間が35%以上減少で9pt



▲リモコン式草刈り機



#### 普及面積（上限4pt）

水稻では70ha以上の拡大（目標年次までに）で4pt

※3 輸出促進法に基づく輸出事業計画の目標達成に向けて栽培体系を検討する場合などにポイントを加算（ただし、環境負荷低減の取組・省力化に資する技術の合計ポイントが満点に満たない場合に限る）

この他、みどりの食料システム法に基づく特定区域での取組である場合や、事業の参加者がみどり認定を受けている場合等に最大10ポイント、事業実施2年目以降の場合に5ポイントを加算

### (5) 参考情報

パンフレット 「プラスチックと賢く付き合うための農業生産現場での取組」

